

おおてみち

第58号

平成19年(2007年)1月15日
滋賀県立安土城考古博物館

第33回
企画
展

甲賀郡の風土と遺宝

平成十九年一月二十日(土)

～四月一日(日)

(月曜休館、但し2/12は開館、翌2/13休館)



「甲賀郡の風土と遺宝」

滋賀県内では市町村合併がほぼ一段落しました。旧郡名を踏襲した甲賀市、高島市、野洲市の誕生などを通して、いま郡に対する関心が高まりをみせています。そこで当館では、各部の歴史と文化を紹介する新シリーズを開催することにいたしました。その第一回として白羽の矢を立てたのが、甲賀郡です。

本館では、一昨年は甲賀忍者について、昨年は紫香楽宮、甲賀寺など奈良時代の重要遺跡や出土遺物について、二年連続で甲賀郡に關わりのある展覧会を開催しています。これを受けて本展では、これらの企画で殆ど紹介できなかった甲賀の優れた宗教美術を取り上げます。Ⅰ部「仏像彫刻―古代・中世の造仏―」、Ⅱ部「神像・狛犬・板面・懸仏―神仏習合のかたち―」、Ⅲ部「甲賀の仏教絵画」の三部構成とし、当地を代表する指定文化財一五件（重要文化財五件、重要美術品一件、県指定文化財九件）をはじめ、展覧会初出品の作品や新資料を含む三六件（約八〇点）の美術工芸品を一堂に展覧いたします。どうぞご期待下さい。

関連行事

●博物館講座（於セミナールーム）

日時 平成一九年一月二一日（日）

一三時三〇分～一五時

「甲賀郡の風土と遺宝」

講師 当館学芸課 山下 立

日時 平成一九年二月一八日（日）

一三時三〇分～一五時

「近江の石工たち」

講師 当館学芸課 田井中洋介

主な展示資料（会期中展示替えをします）

誕生釈迦仏立像（重文、善水寺）

薬師如来坐像（重文、大園寺、表紙写真）

薬師如来坐像（県指定、大日寺）

阿弥陀如来坐像（県指定、香蓮寺）

阿弥陀如来立像（附 像内納人品、重文、玉桂寺）

聖観音立像（重文、櫻野寺）

地藏菩薩立像（重文、水島寺）

男神・女神坐像（三三三、八坂神社）

伝説神坐像（九郎、附一、八坂神社）

飯縄権現立像（秘仏特別公開、福量寺）

福太夫面（附すずいこ像、県指定、油日神社）

飯道神社懸仏群（二〇点、県指定、飯道神社）

聖観音坐茶羅図（県指定、長寿寺）

釈迦如来及四天王像（重文、常楽寺、挿図写真）



（財）滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

今年も開催します！
あの遺跡は今！
 埋蔵文化財整理調査成果報告会

パート4

平成一七年度から開催しています「あの遺跡は今！」は、出土品の調査などから得られた最新の調査成果を発掘調査報告書に先だっていち早く、そしてわかりやすくお伝えする報告会です。新聞やテレビで話題となった遺跡の最新情報をご家族でお楽しみください。



日時 平成一九年二月四日（日）

午後一時三十分～三時三十分

会場 当館セミナールーム（定員一四〇名）

内容 ○縄文・弥生の人体表現（守山市赤野井浜遺跡）○弥生時代から古墳時代の湖

のほとりの人々（守山市弘前遺跡）○近

江と平城京をつなぐ道（大津市関津遺跡）

参加方法 当日先着受付順・参加無料

※当日は整理調査作業室の特別公開や出土品展示、整理調査作業体験なども行います。

収蔵資料紹介

織田城郭絵図面 一鋪

(個人蔵 当館寄託品)

高さ七七、〇×幅五三、〇cm

図中には「織田城郭絵図面」とありますが、織田信澄の大溝築城から敗死後の経緯が記されていることや、絵図を取めた袋の表に「大溝古絵図」とあることから、織田信澄が整備した大溝を描いた図と考えられます。袋の裏には「光貞公より拝領」とあって、大溝藩十一代藩主であった分部光貞(一八一六―一八七〇)の名が記されています。

大溝城は、織田信長の甥である織田信澄が、天正六年(一五七八)に築城を開始しました。

しかし、明智光秀の娘婿であったことが災いして本能寺の変の直後に殺され、城はしばらくの間荒廃しました。元和五年(一六一九)に分部氏が二万石で移封されると、三の丸に陣屋を構えて城下町の再整備を行いました。

絵図は、大溝城の主郭と城下町の南部が描かれ、道や堀、そして居住区が色分けされています。天守や櫓は文字で位置を記すのみですが、門は通常の門と櫓門と書き分けています。また、天守(絵図では「天主」)の位置



が本丸の東南に描かれており、現在残る天守台(本丸のほぼ中央に位置する)と位置が異なりますが、本丸や堀の配置は分部氏時代と変わりはありません。

城下町の描き方も分部氏時代と比べて違いが認められます。まず、北国道(西近江路)の位置が分部氏時代の城下町では城の東側を通り、対して、絵図は城下町の西側を通り、武家屋敷や町屋の位置も分部時代とは相当異なります。絵図には制作年代を判断する情報はありませんが、図中に「今ハ…」と分部氏時代の地名と対照できる記載があることから、江戸時代に当時残された情報を集めて作成した絵図の可能性も考えられます。織田信澄時代の大溝城は天守台を除くと皆無に等しく、当時の景観を推測する資料といえます。

安土城郭調査研究所通信

平成18年度 特別史跡安土城跡 発掘調査概要(北麓越峰南面部分)

今年度の対象地は、旧風土記の丘駐車場(県有地)として使用されていた場所にあたり、城下から延びる下街道が北麓越峰へと続いている部分です。明治26年の地形図によると、外堀に沿って東西には直線的に延びた道(旧朝鮮人街道)は、線路(旧国鉄)と交差する部分で北に屈曲し、北麓越峰を越えて南須田に至っています。また、道の北側には西側と同様に内堀が描かれています。



斜面南面 石垣2

旧駐車場造成地を調査した結果、西端で造成土(約100cm)の下から、旧水田跡が検出されたのみで、その他の場所では湿地が広がっていた状況が確認されました。今回の調査地では、昨年度のような内堀、およびそれを区画する石垣等の遺構は検出されず、この区域まで内堀は広がっていないことが明らかになりました。また、下街道は、旧国鉄東海道線電化に伴い拡張された線路(現在のの上り線)の下に埋もれたものと推定されます。

また、同時に実施した周辺に存在する石垣の詳細調査の結果、駐車場北側に築かれた石垣は、方形の郭を構成するものと思われていましたが、南東角部分が後世に構築されたもので、当初は2ヶ所の隅部を持ち、さらに東に延びていたことが判りました。詳細は不明ですが、時雨斜面に構築された石垣と併せて、城が街道と接する部分であることから、何らかの施設が存在したと推定されます。

博物館の主な催し

4 月	3 月	2 月	1 月	月	
1月20日～4月1日 第33回企画展 「甲賀郡の風土と遺宝」				展 示	
<p>30日(月)休 博物館講座「平成19年度安土城発掘調査の成果」 講 師：西東洋樹氏(安土城発掘調査研究員) 時 間：午後1時30分～午後3時 (当日受付、140名) 場 所：当館セミナールーム(無料)</p>	<p>29日(日) 春のお茶会(当日受付、約100名) 時 間：午前10時半～午後3時 場 所：当館エントランスホール 参加費：500円(実費)</p> <p>28日(土)～6月10日(日) 春季特別展「縄文から弥生へ―農耕社会の萌芽と変遷―」(仮)</p>	<p>11日(日) 史跡案内「甲賀の史跡を歩く」(矢田神社・村山城跡など) 定 員：50名(往復ハガキで申し込みが必要) 時 間：午前10時～午後3時(予定) 集 合：1女草津城甲申駅 参加費：無料(交通費、入館観覧料は自己負担)</p>	<p>18日(日) 博物館講座「近江の石工たち」 講 師：田井中洋介(当館学芸課主任) 時 間：午後1時30分～午後3時 (当日受付、140名) 場 所：当館セミナールーム(無料)</p>	<p>21日(日) 博物館講座「甲賀郡の風土と遺宝」 講 師：山下 立(当館学芸課主任) 時 間：午後1時30分～午後3時 (当日受付、140名) 場 所：当館セミナールーム(無料)</p>	博 物 館 の 行 事

家族のふれあいを表現

「親子で楽しむ写真撮影会」

安土城考古博物館では、十一月四日に「親子で楽しむ写真撮影会」を開催しました。地域に開かれた親しまれる博物館を目指す催し物の一つです。当博物館は「近江風土記の丘」の中にあり、周辺には豊かな自然や多くの史跡が見られます。この地において、親子で楽しいひとときを過ごしていただき、美しい自然や文化財のいろいろな表情を被写体として「近江風土記の丘」を表現していただく撮影会です。

参加者十七名のうち、十三名の方から三十二点の作品を応募頂きました。心あたたまる写真が多く、家族のふれあいの時間の大切さがうまく表現されていました。

審査の結果、最優秀賞(信長賞)一点、優秀賞(秀吉賞)三点、佳作六点が選ばれました。信長賞に選ばれた井戸民江さんの作品「お母さんの体操」は「風土記の丘公園を家族でのんびり楽しんでいる光景がこの一枚の写真に凝縮されている。安らぎを与えてくれる作品」との審査評でした。

これらの作品は十二月九日から一月七日まで、当館企画展示室で展示しました。



信長賞 「お母さんの体操」
(井戸民江さん)

おおてみち 第58号
平成19年(2007年)1月15日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424
E-mail: gakupei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp